



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

待降節第4主日 C年 (2021年12月19日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：ミカ書 5章1—4a節

第二朗読：ヘブライ人への手紙 10章5—10節

福音朗読：ルカによる福音書 1章39—45節

• • •

三つの朗読から

## 第一朗読

ベツレヘムはダビデ王が生まれた土地、そこはエフライム(エフラタ)<sup>ぞく</sup>族という小さな氏族<sup>しぞく</sup>が住む土地でもありました。少数派の中から「イスラエルを治める者が出る」と第一朗読は伝え<sup>つた</sup>ます。彼は「主の御名の威厳をもって」群れを養い、群れは「安らかに住まう」。彼の「出生は古く、永遠の昔にさかのぼる」のです。神さまは永遠の昔から救いのご意思、計画の中でエフライムから救い主が生まれることを決めていました。この救い主は、力の均衡でもなく、人間の力によるのでもない、神の力に身を委ねて主の力、神である主の御名が働くことで生まれる「平和」をもたらすのです。

## 第二朗読

「世に來られた」キリストは、「焼き尽くす<sup>や</sup> 献げ物<sup>つ</sup>や罪を贖<sup>ささ</sup>うためのいけにえを好まれ」ませんでした。キリストが來られたのは神の「御心<sup>みこころ</sup>を行<sup>おこな</sup>うため」だったのです。神の御心は「律法に<sup>りっぽう</sup>従<sup>したが</sup>って<sup>ささ</sup> 献げられるものを望みもせず、好ま」なかったことでした。そこで、御心を立てるために、キリストは自分自身を献げたのです。こうして「わたしたちは聖なる者とされた」のです。

## 福音朗読

エリザベトは聖霊が今、自分に働いていることを自覚していたのでしょうか? 「あなたの挨拶<sup>あい</sup>のお声<sup>こゝろ</sup>をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました」。エリザベトは何か不思議な力が自分の身体に働いていることには気がついていたでしょう。でもそれが神の霊、聖霊であったかどうかは気づかなかったのかもしれませんが。それでも、彼女は悟ります。マリアが「わたし

の主のお母さま」になったことを。これもまたエリザベトに働いた聖霊のおかげです。胎内の子が「喜びおどった」ことで、さらにマリアは悟り、理解します。救いの歴史の中で語られた神のことが、実現したことを。

### 【ちょっとひと言】

以下、がんこなじじいのひと言だと思って聞き流してください。でもたいせつなことです。

少し気になるのは、「クリスマスイブ」という表現です。「クリスマスイブ」とはクリスマスの前夜ということで12月24日の晩を指しているようです。ですから、24日の夜のミサを「クリスマスイブのミサ」、あるいは「イブのミサ」と呼ぶ信者さんがずいぶん増えました。神父でもそう呼んでいる方がおられるようです。

24日の晩のミサは、25日の夜半のミサのことです。深夜にミサをできなくなりましたから前倒しでミサをしているのであって、「イブのミサ」ではありません。そもそもカトリック教会には「クリスマスイブ」という概念がありませんからご注意ください。典礼の時間は日没後から翌日となります。ですので、24日の夜のミサであってもそれは25日の夜半のミサなのです。

## 待降節の黙想

YouTube に黙想の動画をアップしましたので、ご覧ください。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLjA2CFrWfZm7D6lgFOU2UEfxRNwv7BNuZ>



2021待降節の黙想  
4本の動画・0回視聴・本日更新  
限定公開  
すべて再生

1 2021待降節の黙想 その四  
Hiroshi Konishi 19:27

2 2021待降節の黙想 その三  
Hiroshi Konishi 15:06

3 2021待降節の黙想 その二  
Hiroshi Konishi 18:00

4 2021年待降節の黙想 その一  
Hiroshi Konishi 13:49

Hiroshi Konishi チャンネル登録